

令和3年度 地域連携事業報告

有野台団地等 再生・活用プロジェクト

2022/2/16

令和3年度地域創生に定める実践力養成
ひょうご神戸プラットフォーム連絡会

栗山尚子（神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授）

後藤沙羅（神戸大学大学院工学研究科建築学専攻助手）

地域連携活動の発意・目的

●背景・発意：

神戸市での1960年代から住宅団地の開発。現在、居住者の高齢化・施設の老朽化による活力低下。

⇔

計画的につくられたニュータウンのインフラや上モノなどの資源の有効活用すれば、団地自身の活性化につながる。さらに、近隣地域や周辺の公的施設の運用にとっても極めて有用である。

2014年度からの活動から、高経年住宅団地の再生の1つの手法として、空き住戸のDIYやリノベーションによって住戸の価値が向上し、空き住戸の流通に寄与することが明らかになりつつある。

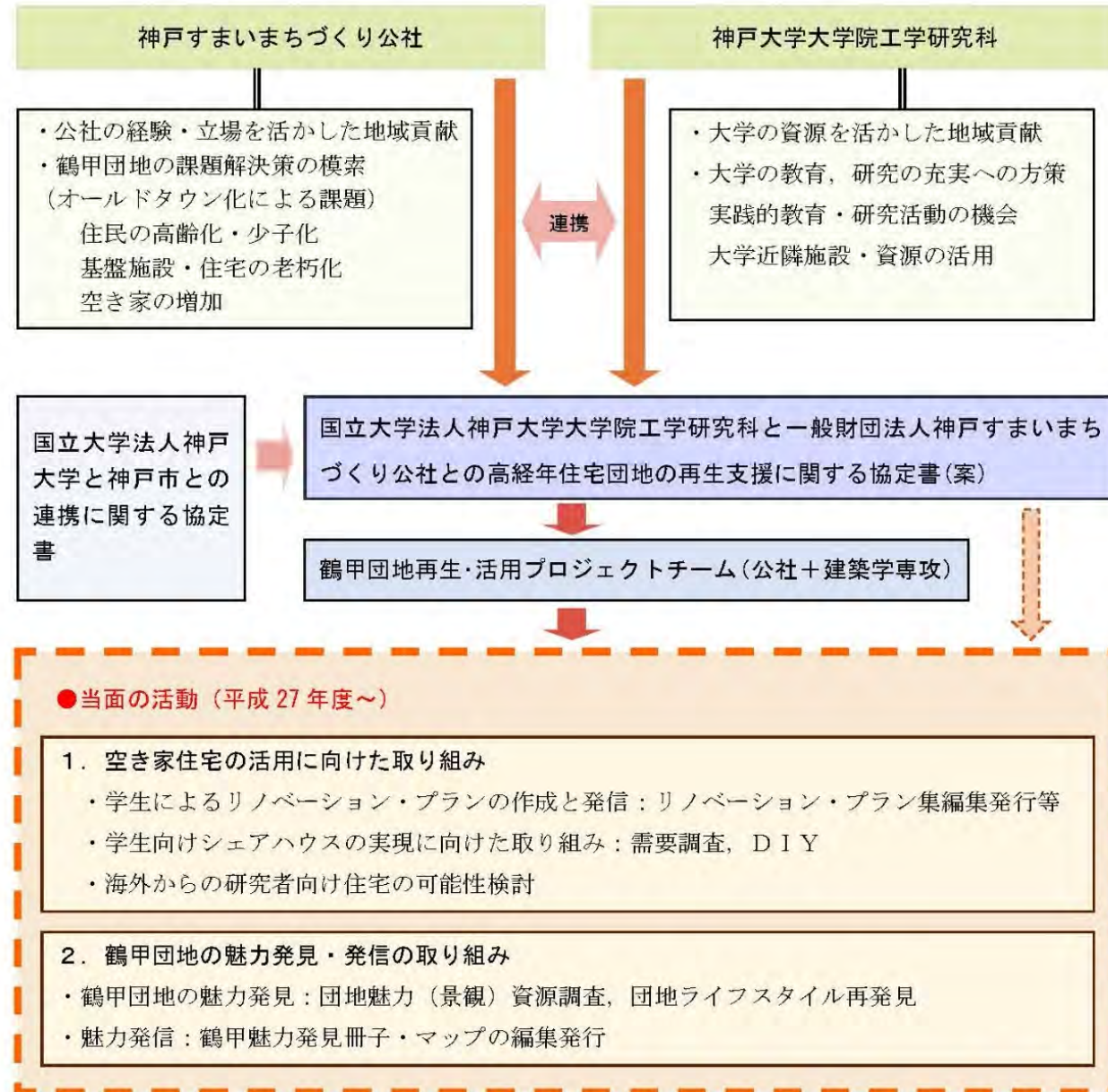
●目的：

神戸すまいまちづくり公社と連携して、団地の空き家問題の解決手段の1つである、DIYやリノベーション活動に取り組む。

本事業の実施によって、団地の有効な資源を、地域社会と神戸大学の教育・研究に有効に活用する方策を検討する。

2015/6/11

神戸大学大学院工学研究科と
神戸すまいまちづくり公社が、
高経年住宅団地の再生支援に関する
連携協定を締結。



これまでの連携活動：

●対象地：神戸市内の郊外住宅団地。

鶴甲団地（2015,16,2020年度）、
高倉台団地（2016,17年度）、
名谷団地（2018年度）、
有野台団地（2019,2020年度）

●地域連携事業の内容：

団地の魅力発見・魅力紹介ブックの作成。
団地での学生シェアハウスのニーズ調査。
空き住戸のリノベーションプランの提案・
発表。
DIYの実施。
団地の外構計画の提案。
空き家発生可能性に関する調査。
空き家の潜在的な利活用意向の調査。など。

2020/12/12

団地再生ヘタッグ 工学研究科と神戸すまいまちづくり公社が連携協定を締結 | トピックス | 神戸大学大学院工学研究科・工学部



製造を科学するこころの育成と実践

神戸大学大学院工学研究科・工学部

Graduate School of Engineering Faculty of Engineering



広報資料



アクセス

ENGLISH

お問合せ

受検生の方へ

在学生の方へ

卒業生の方へ

研究者・一般の方へ

ホーム

はじめに

工学研究科

工学部

研究成果

キャンパスライフ

ホーム > 研究成果 > トピックス > 団地再生ヘタッグ 工学研究科と神戸すまいまちづくり公社が連携協定を締結

研究成果



トピックス

工学研究科の研究Activity

教職員・学生の受賞

大型研究プロジェクト

工学研究集報

紀要・メモワール

Rokko Research Wind of
Engineering

研究成果

団地再生ヘタッグ 工学研究科と神戸すまいまちづくり公社が連携協定を締結

神戸大学工学研究科は6月11日、一般財団法人神戸すまいまちづくり公社と高齢年住宅団地の再生支援に関する連携協定を締結しました。協定の締結により連携事業を実施し、団地内の住宅ストックの有効活用・流通促進や地域の活性化を図ります。

神戸すまいまちづくり公社はこれまで、かつて神戸市住宅供給公社が分譲事業を手がけた神戸市灘区の鶴甲団地をモデルに、空き家の増加が懸念される既存住宅の流通促進を通じて、若年世代の呼び込みや地域の活性化を目指してきました。鶴甲団地に近接する神戸大学では、本学の地域連携の基本理念のもと、公社と連携し空き家を対象とした学生によるリノベーションモデルプランの制作・定時や流通促進イベントの共同実施など、少子高齢化社会に対応した地域貢献事業に取り組んできました。このような協働事業をより発展・展開させるために、今回の協定締結に至りました。

今後、空き家の活用に向けて学生によるリノベーションプランの作成やシェアハウスの整備検討のほか、団地の魅力を再発見し、若年世代の呼び込みを図るなどの連携事業を実施する予定です。

関連リンク

一般財団法人神戸すまいまちづくり公社

神戸市と包括連携協定を締結しました(2013年5月24日)

<http://www.eng.kobe-u.ac.jp/news/20150618.html>

公社・大学の連携による活動 2014-2020年度の活動

表. 郊外住宅団地での公社との連携活動

	I. 基礎調査	II. プラン提案	III. 住戸リニューアル活動、 外構空間利用	IV. 情報発信・情報交換
2014年度 鶴甲		住戸リノベプランの提案。	住戸のDIY活動。	
2015年度 鶴甲	団地の地域資源・現地調査。 団地での学生シェアハウスのニーズ調査。 住民への団地の生活に関するヒアリング調査。		団地1階2戸連続住戸のDIY。	魅力発信冊子の企画・編集・発行。
2016年度 高倉台	団地の地域資源・現地調査。	団地外構のプラン提案。		団地課題発見マップをパネル展示。
2017年度 高倉台	団地の外構の現地調査。 空き家発生可能性に関するアンケート調査。		清掃活動+焼き芋のイベント (外構の積極的活用)	地域団体との外構の使い方に関するワークショップ。
2018年度 名谷	住宅の活用意向に関するアンケート調査。 戸建て住宅の賃貸住宅活用に関するヒアリング調査。			
2019年度 有野台	団地全体の現地調査。 センター部飲食店へのヒアリング調査。	兵庫区雪御所住宅の壁面デザインの提案。	兵庫区雪御所住宅の住戸DIY。 有野台団地住戸DIY。	団地全体の地図とセンター部の飲食店に関する地図の作成。
2020年度 有野台 鶴甲	有野台団地の外構調査。	有野台団地の外構提案。 鶴甲団地・住戸リノベプラン提案。	鶴甲団地・プラン提案を実現。 DIY。	有野台団地の地図の仕上げ。

2021年度の連携事業の内容

1. 外部空間のリニューアルプランの実現 有野台団地

昨年度提案した有野台団地の外部空間の5つのプランについて、地域住民の意見を伺う。実現するプランが1つ選ばれ、実施設計のために修正を行ない、工事の一部をDIYで行なう。

2. 空き家基礎調査 唐櫃台団地

空き家問題の解決方法の検討のための基礎データの収集を行う。
今年度は目視で空き家を判断し、団地内の戸建て住宅の空き家数の把握が目的である。
空き家数と地域の生活環境のデータを分析し、地域特性に応じた空き家問題の解決法について、公社と検討を行うための基礎データとなる。

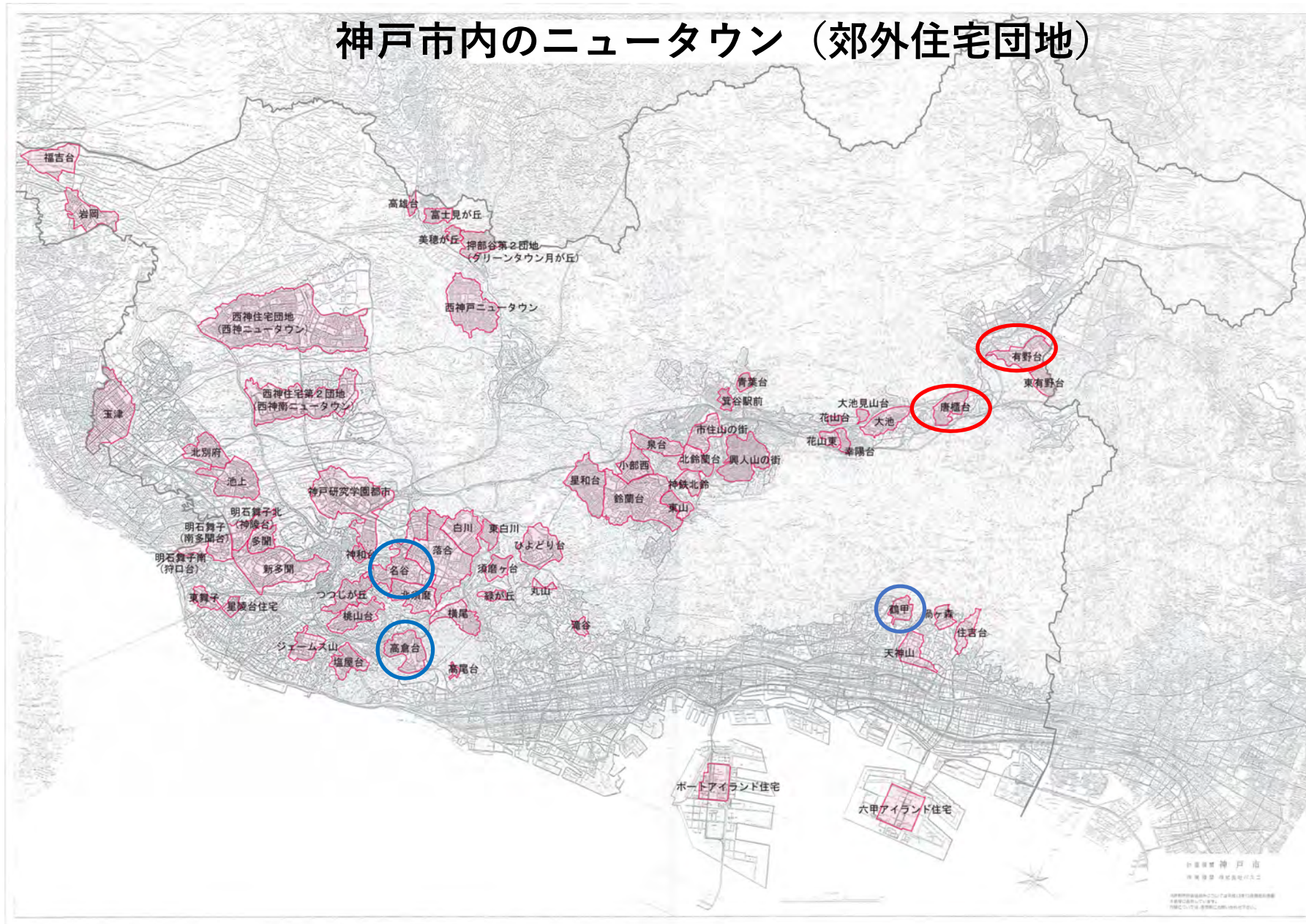
実施体制

- 工学研究科建築学専攻 栗山研究室
栗山尚子、学生16名（修士11名、学部4年5名）
- 神戸すまいまちづくり公社の皆様
- 協力：末包研究室（後藤沙羅助手）

神戸市内のニュータウン（郊外住宅団地）

青色：
昨年度迄の活動場所

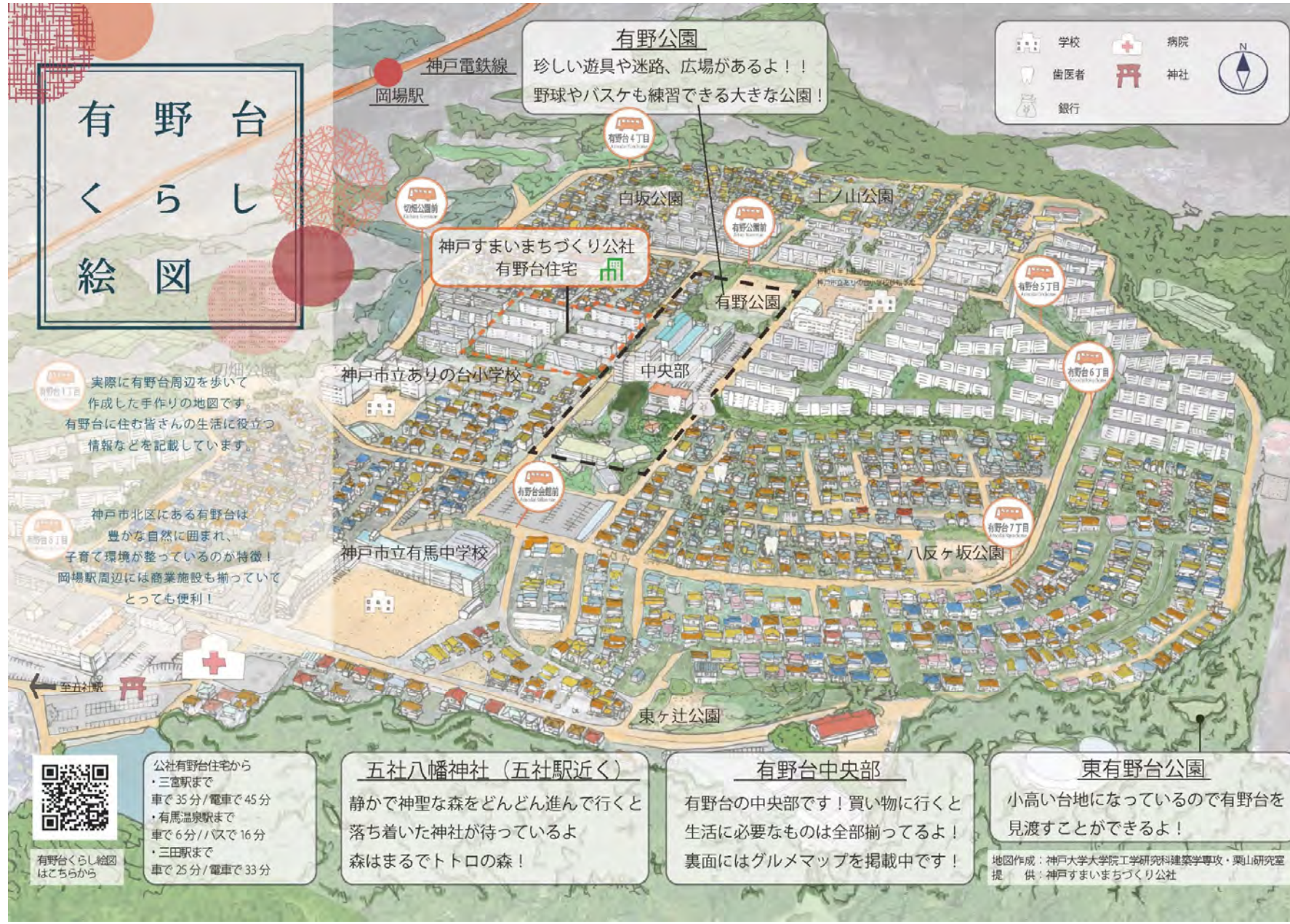
赤色：
2021年度の活動場所



中川龍一, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾, 「ニュータウンの環境変化と居住環境整備に関する研究－神戸市内の開発住宅地における事例調査を通して－」
平成7年度神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程修士論文, 1995.3

有野台団地 魅力マップの 作成 (2019年度～ 2020年度)

有野台 くらし 絵図



実際に有野台周辺を歩いて作成した手作りの地図です。有野台に住む皆さんの生活に役立つ情報などを記載しています。

神戸市北区にある有野台は豊かな自然に囲まれ、子育て環境が整っているのが特徴！岡場駅周辺には商業施設も揃っていてとっても便利！



公社有野台住宅から
・三宮駅まで
車で35分/電車で45分
・有馬温泉駅まで
車で6分//バスで16分
・三田駅まで
車で25分/電車で33分

五社八幡神社（五社駅近く）
静かで神聖な森をどんどん進んで行くと落ち着いた神社が待っているよ
森はまるでトトロの森！

有野台中央部
有野台の中央部です！買い物に行くと生活に必要なものは全部揃ってるよ！裏面にはグルメマップを掲載中です！

東有野台公園
小高い台地になっているので有野台を見渡することができるよ！

地図作成：神戸大学大学院工学研究科建築学専攻・栗山研究室
提供：神戸すまいまちづくり公社

有野公園
珍しい遊具や迷路、広場があるよ！！
野球やバスケも練習できる大きな公園！

神戸電鉄線
岡場駅

神戸すまいまちづくり公社
有野台住宅

神戸市立ありの台小学校

神戸市立有馬中学校











中央部

東ヶ辻公園

	学校		病院	
	歯医者		神社	
	銀行			

有野台団地 魅力マップの 作成 (2019年度～ 2020年度)

『有野台中央部グルメマップ』～新鮮食材が手に入る！！ここに行けば食事に困らない！！ゆっくりした時間が過ごせる！！～

<p>①『よしおか酒米店』 営業時間：お昼時～21時 定休日：金曜日</p>  <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. 健康と街の活性化！ 知り合いも大切やね！ 何かあってもまちの皆がいるところかな ...</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. 年配の人に好まれるものつくってる！</p> <p>Q. 意識されていることは何ですか？ →A. 気軽に呑むことができるお店であり続けることやね！</p>	<p>②『お好み焼き たかだや』 営業時間：昼時～21時 定休日：水曜日</p>  <p>Q. 有野台の良いところは何かと思われませんか？ →A. いい意味で距離感が近く、何かあってもまちの皆がいるところかな ...</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. 焼きそばです (編集者談：たかだやも美味しそうでした...)</p> <p>Q. どのような方達が来られますか？ →A. 常連さんたちが多いね！</p>	<p>③『ありのパン マルジュン』 営業時間：9:30～14:00 定休日：日・月・祝</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. 国産小麦 100% を用いたパンです！</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. メロンパンです！ これまでに、累計 44,000 個売れています！ (2013年9月～2020年4月)</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. お店で、自分の力で丁寧に作っていること。</p>	<p>④『お好み焼き HIRO』 営業時間：お昼時～21時 定休日：金曜日</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. 36年間真面目にコツコツとやってきたこと。 勿論味に自信があるのは当たり前です！！</p> <p>Q. よく売れる商品は何ですか？ →A. 満遍なく出るけど ねぎ焼きかな？</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. 「生地」の味がかわらないように意識しています！ (編集者談：これぞ、「職人」という旦那さんでした！)</p>	
 <p>有野台中央部</p> <p>①よしおか酒米店 ②お好み焼き たかだや ③ありのパン マルジュン ④お好み焼き HIRO ⑤魚よし ⑥鮮魚 なな福 ⑦Naminori 食堂 ⑧とうふ処 乗石</p> <p>至：④お好み焼き HIRO</p>				 <p>広域 MAP</p> <p>有野台中央部 (左の MAP のエリアです)</p>
<p>⑤『魚よし』 営業時間：16時～ 定休日：水曜日</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. まあ、一回食べに来てみて！！ (笑)</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. 一品料理やお寿司など。お酒と一緒に ...</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. とにかく顔馴染みのお客さんを大切にしようと考えています！！</p>	<p>⑥『鮮魚 なな福』 営業時間：10時～15時 定休日：日・祝</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. とにかく安く美味しいところです！</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. 旬のお魚を提供させて頂いています。</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. 良い商品を安く提供することです。 (編集者も、3品 1000円セットを買いました... ウマイ!!)</p>	<p>⑦『Naminori 食堂』 営業時間：10時～18時 定休日：月・火曜日</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. 全て「手づくり」というところです！</p> <p>Q. オススメの商品は何ですか？ →A. 手づくりカレーです！プリンも良く売れています。</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. お客様の意見を聞きつつ、「当店にしかない」商品を作ることです！</p>	<p>⑧『とうふ処 乗石』 営業時間：10時～18時 定休日：不定休</p>  <p>Q. お店のアピールポイントは何ですか？ →A. 「出来立て」のお豆腐です！</p> <p>Q. オススメ商品は？ →A. くみあげ豆腐、さが豆腐 (どの料理にも合う)</p> <p>Q. 大切にされていることは何ですか？ →A. 保存料を使わずに「新鮮」な豆腐を作ること。 毎日作っています、前日の分は売らない！</p>	

編集後記：お店の方々皆さんはとても優しく親切な方ばかりで、突如の突撃インタビューにも快くご回答いただきました！本当にありがとうございます！！

作成：神戸大学大学院工学研究科建築学専攻・岡山研究室 (2020年1月時点)

有野台団地 外部空間 リデザインの提案 (2020年度)

有野台団地の外部空間リデザインの提案

コンセプト「ひろがる道から うまれる居場所」

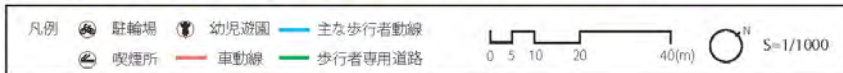
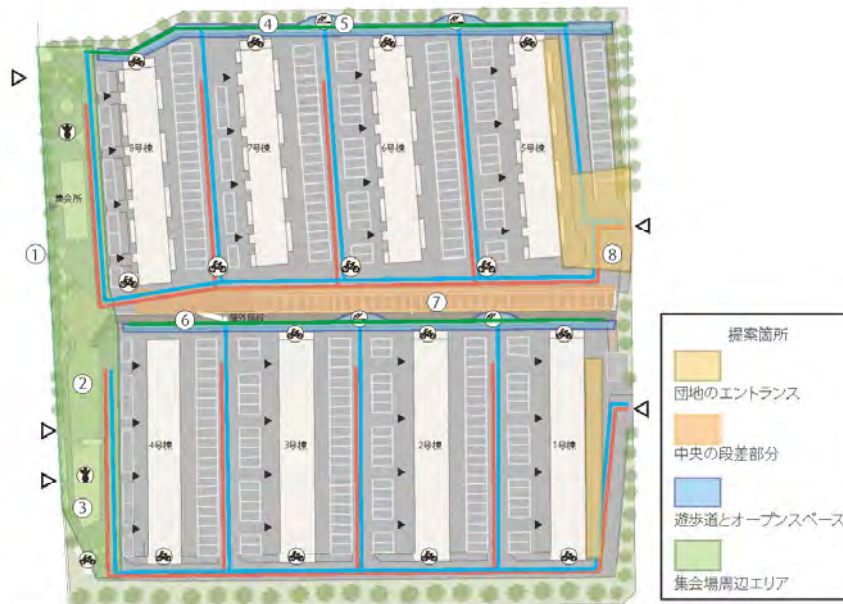
歩車分離により団地内の安全性を高める。通路脇に様々なスペースを配置することで子供からお年寄りまで快適に過ごせる場所を創る。

デザイン「人が集い、憩う空間に自然のぬくもりを与える」

居住者が集まる空間の床材をウッドデッキにすることで、自然を感じさせ、老若男女に優しい空間を創出させる。



現状の課題を鑑みて、以下の4エリアを新しい空間の提案箇所とする。



現状の団地空間

- 団地の南側は高木が連続しており視認性が低い。そのため、一体的なデザインで閉鎖感を緩和する。
- 立ち入れない未整備の空間が多く、通路幅も狭いため快適に歩けない。高低差を利用して気軽に立ち寄れる広場として一体を整備したい。
- 幼児が遊ぶための空間が設置されている。ここにバスケットリングなどを設けると更に遊びの幅が広がりそう。団地への出入口があるが狭く、外からも分かりにくい。
- オープンスペース間に歩行者専用通路が施されているが段差が見られ幅が狭く、歩きづらい。
- オープンスペースには、喫煙所と砂場が設けられている。喫煙所と子供の居場所を分けることで、みんなが安心安全に溜まれる空間にしたい。
- 階段が設置されているが1段目が道路の段差と重なってしまい狭くなっている。
- 団地(下)と団地(上)のレベル差が3500mm緑が乏しくエリアの中心にも関わらず寂しい印象を受ける。歩行者空間が不十分であり、危険性が生じている。
- 館銘板がなく、入口らしさがない。車道と歩道の境界が曖昧で、危険性がある。

公社所有住宅の外部空間の現地調査を行ない、4か所のリデザインの提案を院生が行なった。



団地のエントランス

- ・館銘板がなく、入口らしきがない。
- ・車道と歩道の境界が曖昧で、危険性がある。

曲線がつくる明るい入り口

曲線を用いて舗装やサインを作ることで、**あたたかみのあるエントランス**を作る。

また車道と歩道を曲線が**緩やかに分節し**、安全性を確保する。



車道と歩道の境目を緩やかな曲線として、車の速度を下げる。



館名板、掲示板、ベンチを曲線で作る。木と共に、**一階の目隠し**となる。



人が集まれる**休憩スペース**を建物の近くに作り、自販機を設置する。



- ・看板、掲示板などスチール、ステンレスなどの**金属** **パステルカラー**に塗り分ける
- ・ベンチー**木材** 壁の部分も木材で**ルーバー**とする。



ごみステーション

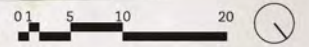
ベンチと自販機が設置された休憩スペース



歩道は舗装し、**目地に芝**を植える。



平面図 1:400



電話ボックス

館名板

01 デザインコンセプト

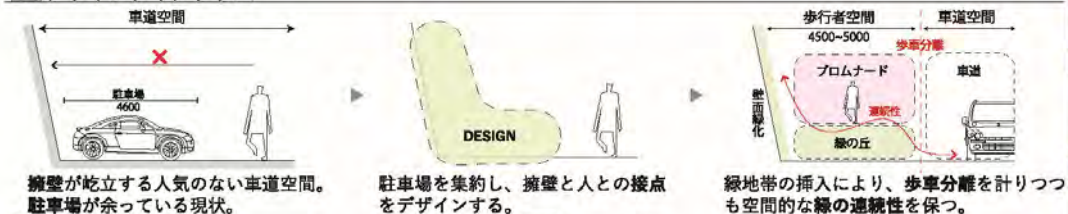
擁壁断絶を緩和する、緑の歩行者空間
 駐車場と接しており、無機質な背景と化してしまっている擁壁。人々に対して屹立するこの4mの「カベ」を緑化し、一体を緑の歩行者空間とすることで、敷地の東西を結ぶ、擁壁を活かした新たな人の空間を創出する。

02 現状の課題



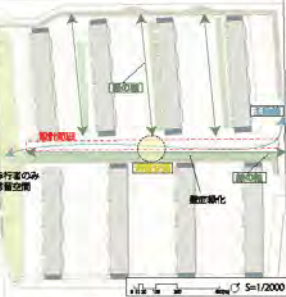
- ①無機質な4mの擁壁が屹立し殺風景な景観を形成している。
- ②緑が乏しくエリアの中心にも関わらず寂しい印象を受ける。
- ③歩行者空間が不十分であり、危険性が生じている。

03 デザインダイアグラム



04 敷地分析

敷地の中心性と軸の交わるポテンシャル
 南北方向の緑の軸を受け東西方向に緑の軸を展開することで、エリアに緑の連続性をつくる。また東西方向の移動軸が歩行者の回遊性をもたらす。エリアの中心として憩いの場の要素も含める。

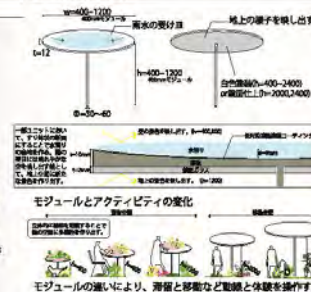


05 プログラム

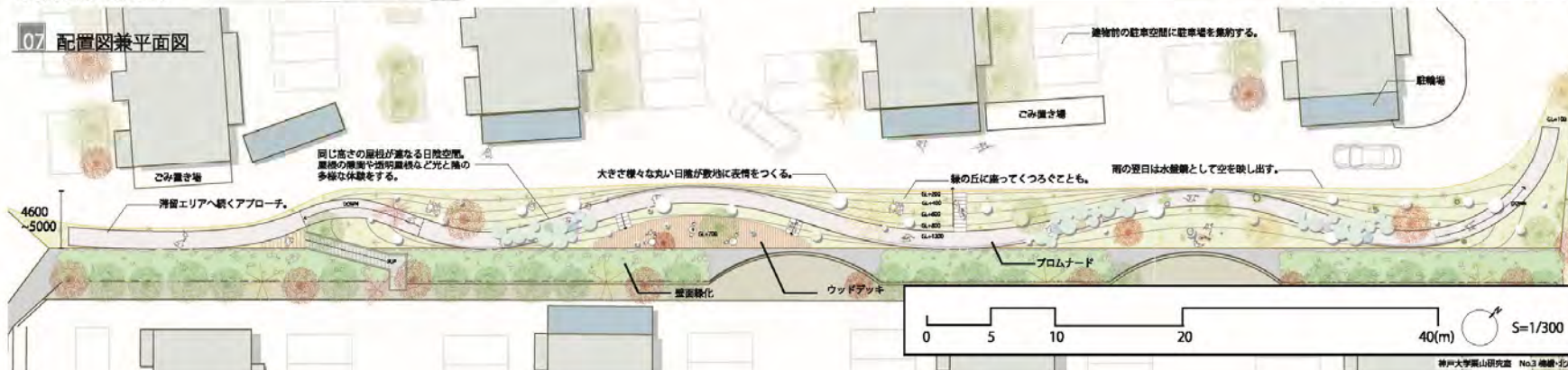
自然の多様性を体験する、人のための空間デザイン
 車道から高さ1000mmの丘を作り曲線の尾根線に沿ってコンクリート敷のプロムナードを施す。この「緑の丘」と「プロムナード」が緑の連続性と歩車分離を共存させる。また滞留空間は擁壁沿いに設けてウッドデッキ、壁面緑化をもって自然を感じる憩いの空間となる。



06 構造体



07 配置図兼平面図



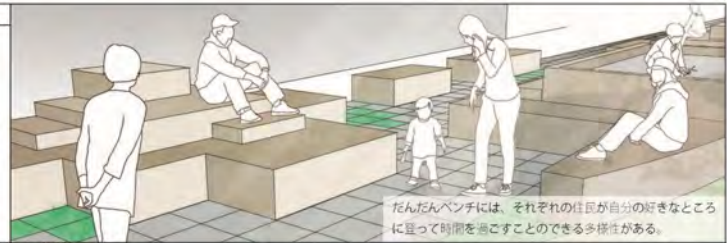
現状の課題



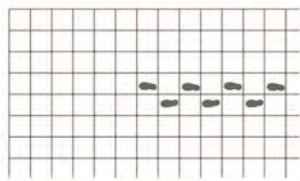
- ① 段差が危ない
現状の舗装は芝生との境界部分に 10 cm 程度の段差があり、つまづく原因となる危険性がある。
- ② 視認性が悪い (特に日没後)
街灯があるものの、その灯りだけでは舗装空間全体までの明るさを補うことはできていない。
- ③ 滞留空間が少ない
子どもが遊ぶ砂場が小さく分割されたものであったり、ベンチの数が少なかつたりするなど。

デザインコンセプト

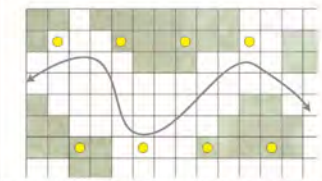
グラデーションに切り替わる
できるだけ既存の風景を失わずに現状の課題を解決することが、このエリアに付き纏けるうえで大切だと感じた。そこで、現状うまく行っていない用途のゾーニングを整理し、グリッドにあてはめる。今までのように直線的に用途を区切るのではなく、同じグリッド上で緩やかに切り替わるようにする。そこで生まれる滞留空間は明確な境界で仕切られたものではなく、緩やかにグラデーションに切り替わるものとなる。



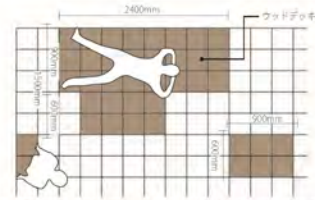
操作



現状の敷地に対して 300mm グリッドを敷き詰める。
(人の足が丁重収まる大きさとして 300mm グリッド)



滞留空間はグリッドの所々を植栽にすることによって明確な境界や段差のない緩やかな移り変わりを。足元にはライトを設置。



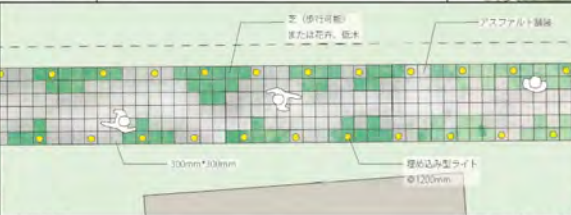
オープンスペースは 300mm グリッドから様々な大きさのベンチや遊び場といった滞留空間を切り出し、統一感を生む。



大きな滞留ベンチ

平面図 S=1/100

大きく一繋がりベンチ空間は、思い思いの場所に座って時間を過ごすだけでなく寝転んだり子どもたちが遊び場所として使ったりでき、幅広い使い方をする。



歩行空間

平面図 S=1/100

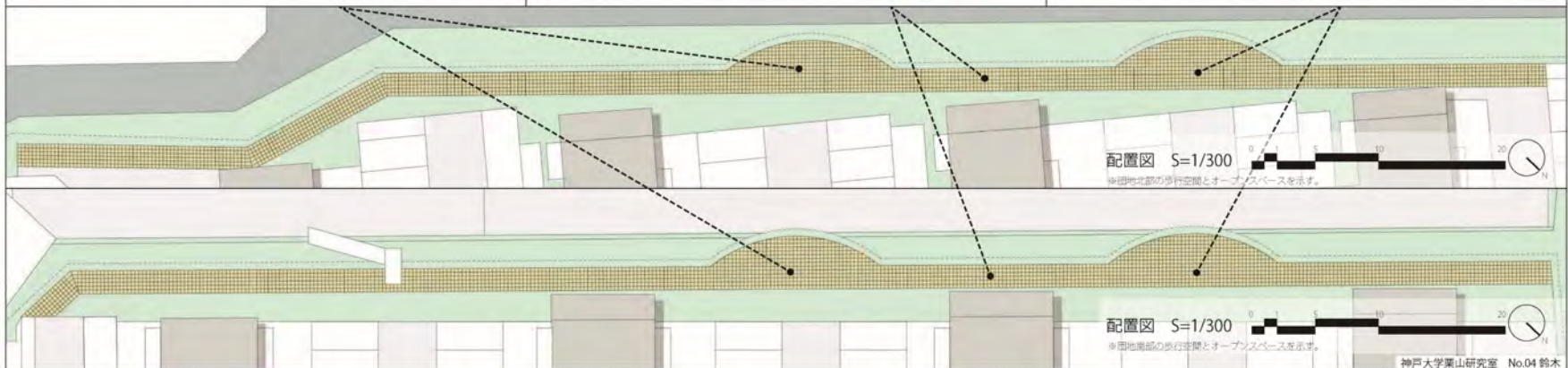
300mm グリッドで区切り、部分的に植栽空間を設けシークエンスに変化を与える。また、埋め込んだ暖色ライトで下から照らし夜間でも優しい明るさを得る。



砂場のあるだんだんベンチ

平面図 S=1/100

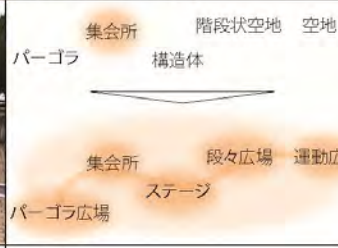
200mm ずつの段差があるベンチでは座る場所ごとに異なる景色が見え、お気に入りの場所を見つけることができる。また、砂場を整備し子どもたちの遊び場を囲む。





課題
 住民が滞留できる居場所が少ない
 ①集会所周辺に休憩できるスペースが不十分で、住民が集まらない。
 ②使われていない構造体があり、殺風景な印象を受ける。
 ③フェンスで立ち入れない未整備の空間があり、勿体ないと感じる。

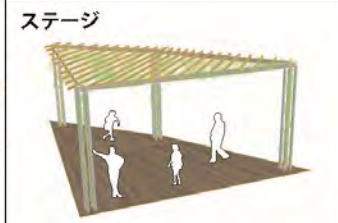
コンセプト
既存を活かした様々な居場所を繋ぐ
 現在の要素であるパーゴラ、構造体、階段状の高低差などを活かした広場を創る。異なる性質を持つそれぞれの広場が多様な住民の居場所となり、集会所周辺全体に賑わいが広がる。



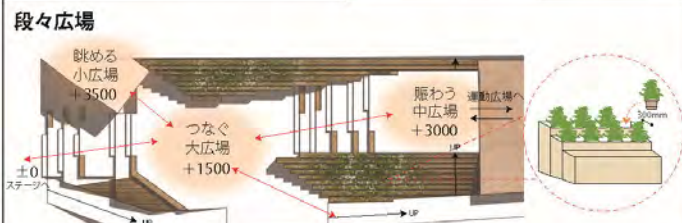
多様な住民のための機能
 子供
 走り回る、ボール遊び、砂場
 大人
 子供を見守る、ママ友との会話、座る
 高齢者
 健康のために歩く、ガーデニング



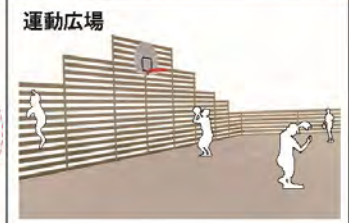
パーゴラ広場
 既存のパーゴラに加え、高さの異なるパーゴラで中心を囲む。中央の砂場で遊ぶ子供を見守りながらママ同士の会話ができる。



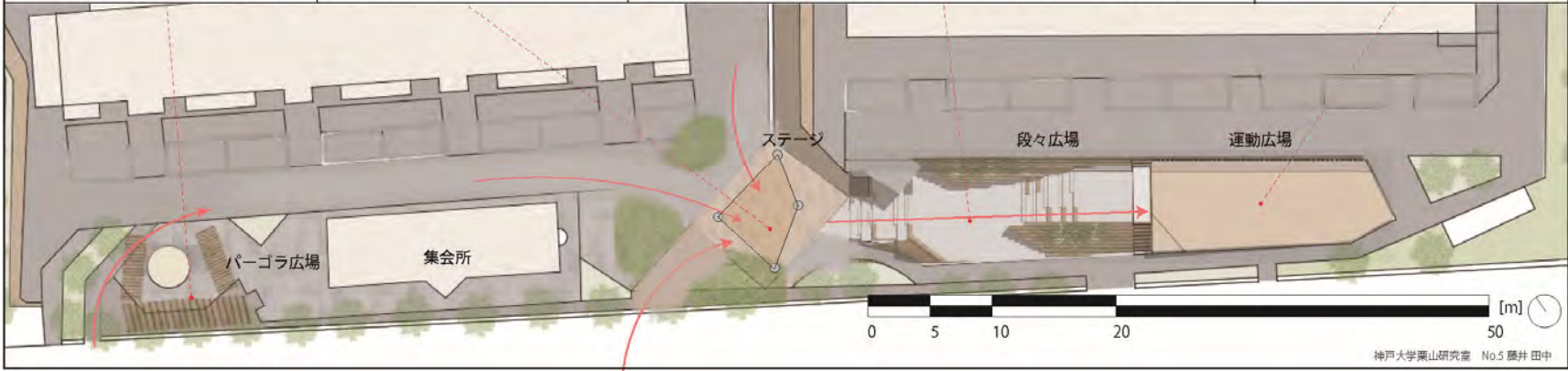
ステージ
 既存の構造体の形に合わせたステージ。つる植物を用いて夏場でも涼しい居場所へ。



段々広場
 団地のレベル差を階段状に繋いだ広場。ステージでイベントを行う際は観客席として使える。段々は小さな鉢植えを入れる枠となり、住民による植栽の管理もしやすい。



運動広場
 木材で緩やかに区切り、子供が運動できる空間として活用する。



外部空間リニューアル工事の取組み 有野台団地

- 4号棟と8号棟に近い外部空間をリニューアルすることになった。
- スケジュールと参加者
参加者：栗山・後藤、栗山研学生

日程	作業	参加人数
7/2	公社での打合せ	栗山+学生3
7/20	現場確認	栗山+学生3
11/8	インターロッキングブロック敷設。 ソーホースの組立て。	栗山・後藤+学生6
11/10	インターロッキングブロック敷設。 ソーホースのペイント。	栗山・後藤+学生12

2021/11/8



2021/11/10



団地の課題と解決にむけた活動

★神戸大学と神戸すまいまちづくり公社で実施してきた連携活動。

表. 郊外住宅団地の課題と解決のための活動(1)

	開発時（1970-1980年代）	課題の顕在化（2020年代）	課題に向けた対策・活動
居住世帯	子育て世帯が一斉入居	開発時の入居世帯の高齢化。高齢化率増のスピードが高い。	★若年層転入の促進のための団地居住の魅力を伝える。 親世帯との同居・近居の促進。
コミュニティ	同時期一斉入居のため強固なコミュニティ	コミュニティの強さゆえに、新規居住者が馴染みにくい。	★コミュニティに関する情報を広く開示。
立地	都会から離れた閑静な住宅地	都会からの遠さが住宅地選択時に不利になる場合がある。通勤を伴わない職種や在宅勤務が主の人々にとっては遠さは不利にならない。	通勤を伴わない職種、在宅勤務が主の世帯に、住環境の良さをアピール。
交通	車中心の計画的な住宅地	自動車免許返納後の交通アクセスの確保が課題。	バス交通の維持やオンデマンド交通の導入。

出典：栗山尚子、郊外住宅団地の再生に関する実践活動の効果と課題に関する研究
 -神戸すまいまちづくり公社との連携活動を事例として-、Designシンポジウム2021講演論文集 200-205 2021年7月

団地の課題と解決にむけた活動

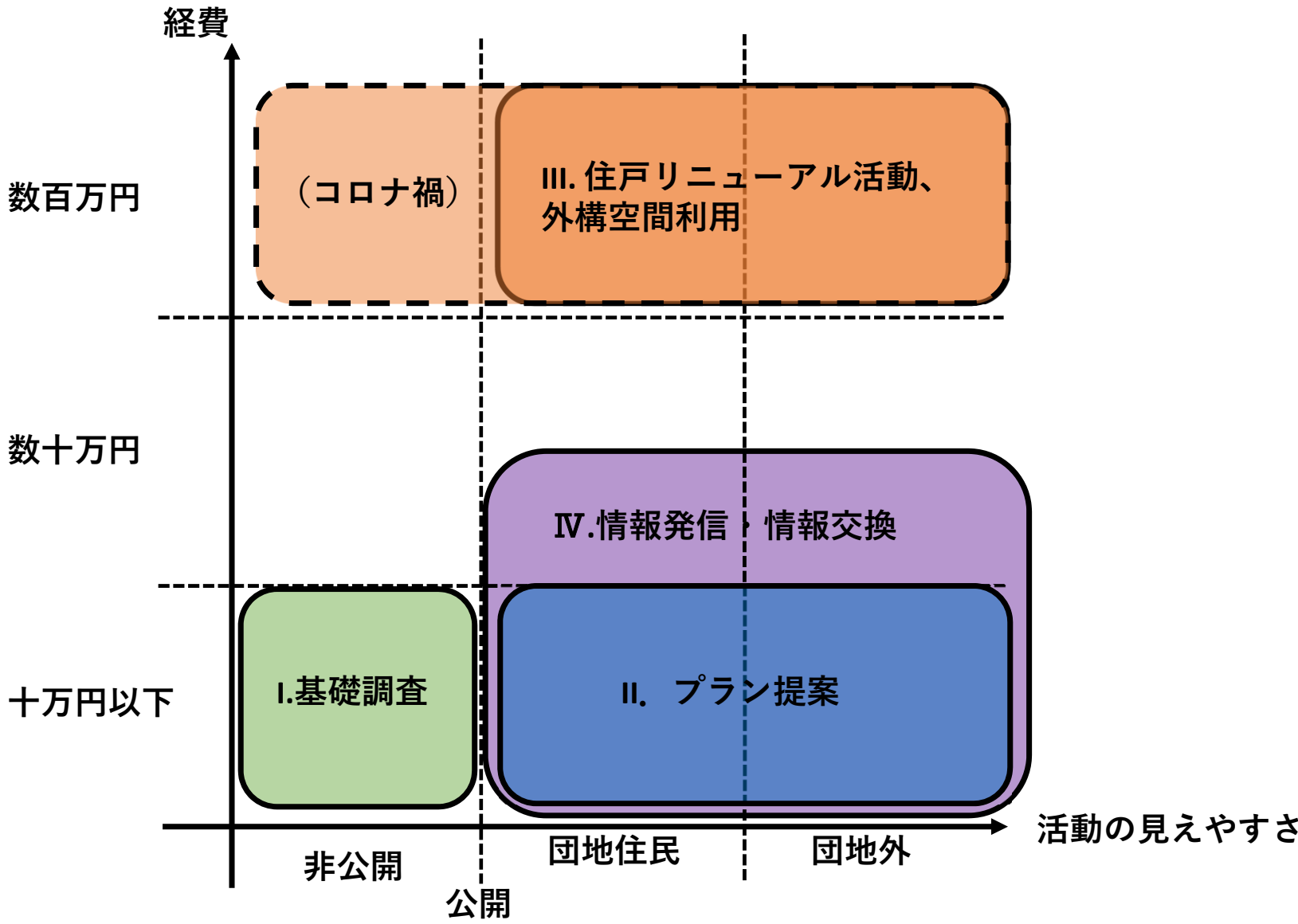
★神戸大学と神戸すまいまちづくり公社で実施してきた連携活動。

表. 郊外住宅団地の課題と解決のための活動(2)

	開発時（1970-1980年代）	課題の顕在化（2020年代）	課題に向けた対策・活動
施設 センター機能	小学校、（中学校）、診療所等、生活に必要な最低限な施設が揃っている。日常の買回り品を購入可能。	施設の老朽化。 多様なニーズに応えられる施設が不十分。 福祉施設へのニーズの高まり。 ネットショッピングの台頭。	施設のリニューアル。 用途混在の推進。 公的支援によるチャレンジショップ、コミュニティサロン等の場の提供や曜日・時間限定での各種サービスの呼び込み。 積極的な公共空間・外部空間利用。 コミュニティビジネスの展開。
住宅 住棟周り	敷地規模の広い、戸建て住宅が中心。 集合住宅もあり。 住棟周りの外部空間が広い。	住宅の老朽化。 空き家の増加（戸建て住宅の流通が順調でない場合やEV無し集合住宅。） 住棟周りの閑散とした外部空間。	公的機関と普段産業者との連携による空き家のマッチングで、住宅の流通を円滑にする。 ★住宅の高質化（リニューアル、DIY等）により、お得な家賃で広い住戸を提供する。 ★住棟周りの外部空間利用。

I. 基礎調査, II. プラン提案
とIV.情報発信・情報交換：
10万円～数十万円以下で公開
しやすい活動が展開できる。

III. 住戸リニューアル活動は、
他の活動と比べて多額な経費
がかかるが、**公社という団地
内住宅を管理している連携相
手がいるからこそ、実践でき
ている活動。**
**住宅の高質化に直接寄与する
活動**として機能している。



出典：栗山尚子、郊外住宅団地の再生に関する
実践活動の効果と課題に関する研究
－神戸すまいまちづくり公社との連携活動を事
例として－、Designシンポジウム2021講演論文
集 200-205 2021年7月

図 連携活動の経費と公開の関係

今後の展開

- With コロナ、ポストコロナ時代における郊外住宅団地の住環境に関する評価の変化
→居住地の選択肢に入るようになるのでは？
- 郊外住宅団地の活性化について、神戸すまいまちづくり公社との連携を継続して、引き続き取り組んでいきたい。